

# 景気ウォッチャー調査

Economy Watchers Survey

平成 17 年 12 月調査結果

平成 18 年 1 月 13 日



内閣府政策統括官室  
(経済財政分析担当)

## 今月の動き（12月）

12月の現状判断DIは、前月比2.8ポイント上昇の55.7となった。

家計動向関連DIは、記録的な寒さのために冬物衣料や暖房器具の動きが良かったことに加え、より良いものを求める傾向が継続していることから、上昇した。企業動向関連DIは、大雪の影響が一部でみられたものの、製造業・非製造業ともに動きが活発になっていることから、やや上昇した。雇用関連DIは、企業の採用に対する積極的な姿勢に加えて、より良い条件での雇用を希望する求職者が増加していることから、引き続き高水準で推移した。この結果、現状判断DIは2か月連続で上昇、横ばいを示す50を8か月連続で上回った。

12月の先行き判断DIは、前月比1.2ポイント上昇の53.6となった。

先行き判断DIは、消費者の購買意欲の高まりが引き続き期待されることから、2か月ぶりに上昇した。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、景気は、回復しているとのことであった。

## 目 次

調査の概要	2
利用上の注意	4
D Iの算出方法	4
調査結果	5
I．全国の動向	6
1．景気の現状判断D I	6
2．景気の先行き判断D I	7
II．各地域の動向	8
1．景気の現状判断D I	8
2．景気の先行き判断D I	10
III．景気判断理由の概要	12
（参考）景気の現状水準判断D I	25

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 調査の範囲

#### (1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟
関東	北関東 茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東 埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重
北陸	富山、石川、福井
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄
全国	上記の計

#### (2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、別紙を参照のこと。

### 3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
  - (2) (1)の理由
  - (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
  - (4) 景気の先行きに対する判断(方向性)
  - (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

### 4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

## 5. 調査機関及び系統

内閣府が主管し、各調査対象地域に地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」を1か所ずつ設けるとともに、各地域別調査機関による地域ごとの調査結果を集計・分析する「取りまとめ調査機関」を1か所設け、これらの機関に本調査業務を委託して実施したものである。

(取りまとめ調査機関)		財団法人	日本経済研究所
(地域別調査機関)	北海道	株式会社	北海道二十一世紀総合研究所
	東北	財団法人	東北開発研究センター
	北関東	財団法人	日本経済研究所
	南関東	財団法人	日本経済研究所
	東海	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	
	北陸	財団法人	北陸経済研究所
	近畿	りそな総合研究所株式会社	
	中国	社団法人	中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会	
	九州	財団法人	九州経済調査協会
	沖縄	財団法人	南西地域産業活性化センター

## 6. 有効回答率

地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率	地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率
北海道	130人	116人	89.2%	近畿	290人	225人	77.6%
東北	210人	195人	92.9%	中国	170人	169人	99.4%
北関東	200人	170人	85.0%	四国	110人	88人	80.0%
南関東	330人	282人	85.5%	九州	210人	164人	78.1%
東海	250人	207人	82.8%	沖縄	50人	43人	86.0%
北陸	100人	100人	100.0%	全国	2,050人	1,759人	85.8%

### 利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

### D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、D Iを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

## 調 査 結 果

- I . 全国の動向
  - 1 . 景気の現状判断 D I
  - 2 . 景気の先行き判断 D I
- II . 各地域の動向
  - 1 . 景気の現状判断 D I
  - 2 . 景気の先行き判断 D I
- III . 景気判断理由の概要  
(参考) 景気の現状水準判断 D I

(備考)

- 1 . 「景気判断理由の概要 全国」(12頁)は、「現状」、「先行き」ごとに区分した3分野(「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」)に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、5つの回答区分(「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」)ごとに判断が良い順に掲載した。
- 2 . 「現状判断の理由別(着目点別)回答者数の推移」(13頁)は、全国の「現状判断」の回答のうち3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数の多い上位3区分(雇用関連は上位2区分)の判断理由として特に着目した点について、直近3か月分の回答者数を掲載した。
- 3 . 14~24頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位3区分(雇用関連は上位2区分)を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位2区分(雇用関連は上位1区分)を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

# I . 全国の動向

## 1 . 景気の現状判断 D I

3 か月前と比較しての景気の現状に対する判断 D I は、55.7 となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべての D I が上昇したことから、前月を 2.8 ポイント上回り、2 か月連続の上昇となった。また、横ばいを示す 50 を 8 か月連続で上回った。

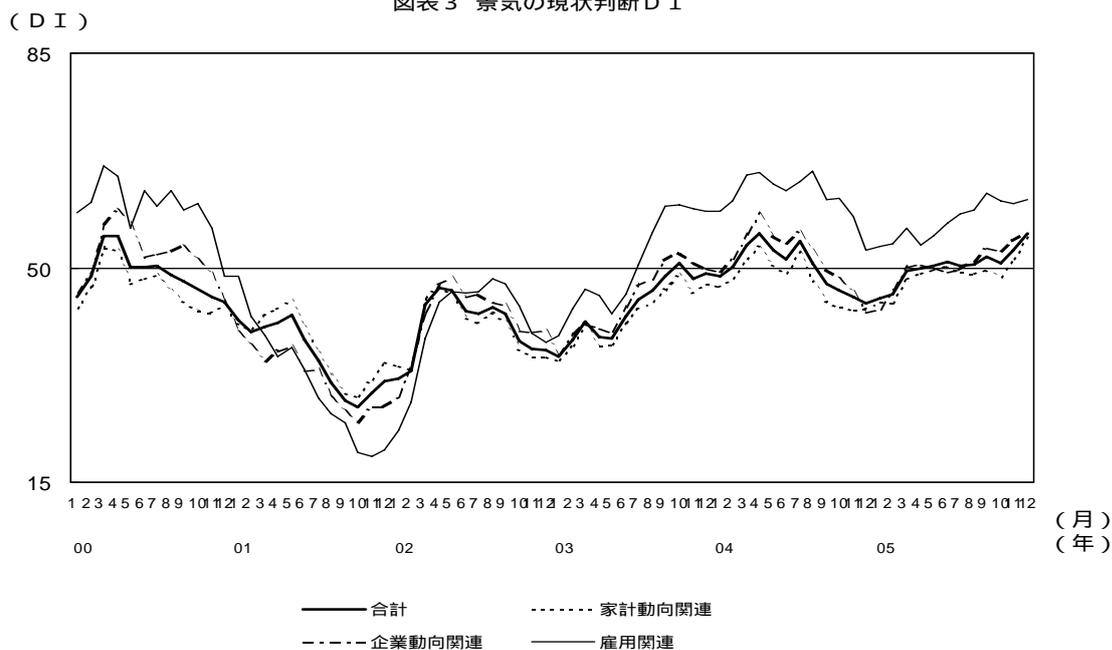
図表 1 景気の現状判断 D I  
( D I )

	年	2005						
	月	7	8	9	10	11	12	(前月差)
合計		50.4	50.5	51.7	50.7	52.9	55.7	(2.8)
家計動向関連		49.3	49.1	49.6	48.5	51.3	54.8	(3.5)
小売関連		48.8	49.4	48.8	47.4	50.6	54.7	(4.1)
飲食関連		48.4	49.1	45.5	48.1	49.7	55.0	(5.3)
サービス関連		51.0	48.3	51.3	50.1	53.1	56.6	(3.5)
住宅関連		48.1	49.1	53.5	51.4	51.8	48.4	(-3.4)
企業動向関連		49.7	50.9	53.2	52.6	54.3	55.7	(1.4)
製造業		48.2	50.5	53.4	52.2	53.3	53.3	(0.0)
非製造業		51.6	51.8	53.6	53.4	55.4	58.2	(2.8)
雇用関連		58.8	59.5	62.1	60.9	60.5	61.1	(0.6)

図表 2 構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	D I
2005	10	1.4%	25.7%	51.0%	18.0%	3.9%	50.7
	11	2.7%	30.6%	46.5%	16.0%	4.1%	52.9
	12	4.3%	34.0%	45.2%	13.2%	3.3%	55.7
(前月差)		(1.6)	(3.4)	(-1.3)	(-2.8)	(-0.8)	(2.8)

図表 3 景気の現状判断 D I



## 2. 景気の先行き判断D I

2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは、53.6となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが上昇したことから、前月を1.2ポイント上回り、2か月ぶりの上昇となった。また、横ばいを示す50を9か月連続で上回った。

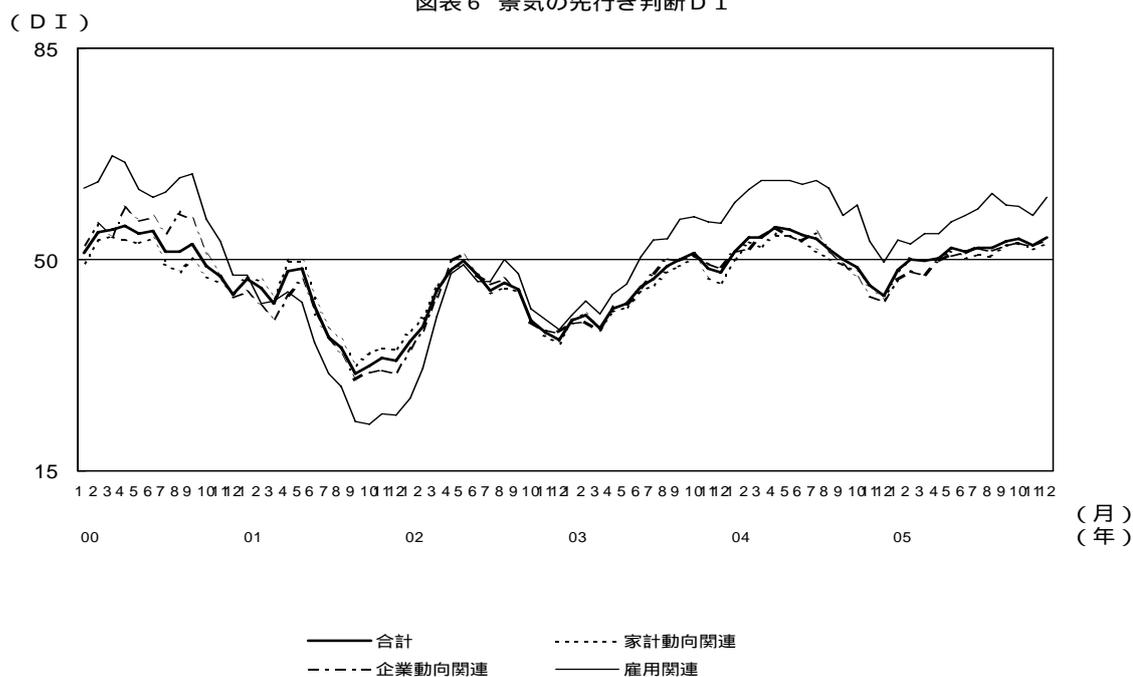
図表4 景気の先行き判断D I  
(D I)

	年	2005						
	月	7	8	9	10	11	12	(前月差)
合計		52.0	51.9	53.1	53.4	52.4	53.6	(1.2)
家計動向関連		50.9	50.7	52.4	52.8	51.7	52.6	(0.9)
小売関連		50.2	50.5	51.3	51.6	51.4	53.2	(1.8)
飲食関連		49.7	48.8	53.8	57.4	54.2	51.7	(-2.5)
サービス関連		52.5	51.8	55.3	55.0	52.2	51.9	(-0.3)
住宅関連		52.2	50.6	49.7	50.9	49.7	51.6	(1.9)
企業動向関連		52.0	51.4	52.3	52.7	52.3	53.3	(1.0)
製造業		52.6	51.6	51.4	50.9	51.2	52.3	(1.1)
非製造業		51.6	51.9	53.3	54.4	53.5	55.5	(2.0)
雇用関連		58.4	61.0	59.1	58.7	57.4	60.2	(2.8)

図表5 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
2005	10	2.7%	28.3%	51.8%	14.6%	2.7%	53.4
	11	2.3%	26.9%	52.5%	14.6%	3.6%	52.4
	12	3.1%	29.3%	50.4%	13.5%	3.8%	53.6
(前月差)		(0.8)	(2.4)	(-2.1)	(-1.1)	(0.2)	(1.2)

図表6 景気の先行き判断D I



## II. 各地域の動向

### 1. 景気の現状判断DI

前月と比較しての現状判断DI（各分野計）は、全国11地域中、10地域で上昇、1地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは沖縄（8.8ポイント上昇）、低下したのは北陸（1.2ポイント低下）であった。

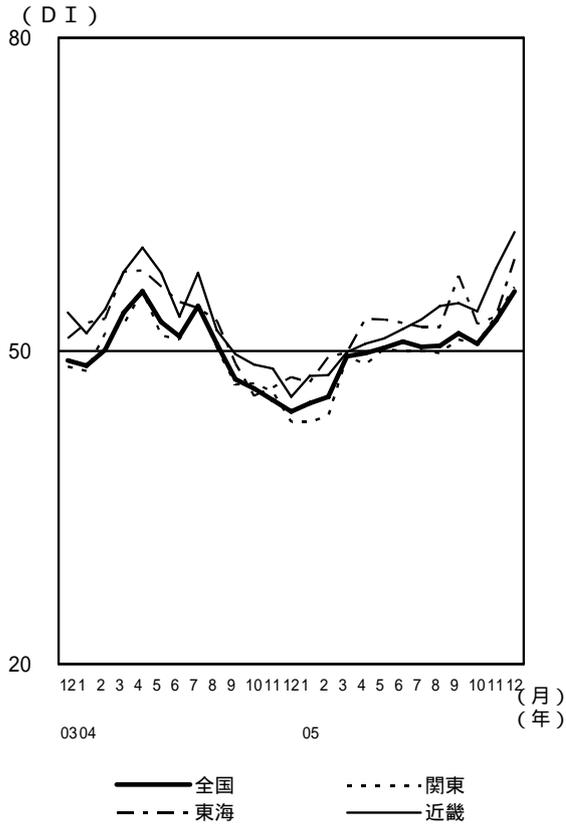
図表7 景気の現状判断DI（各分野計）

(DI)	年 月	2005 7	8	9	10	11	12	(前月差)
全国		50.4	50.5	51.7	50.7	52.9	55.7	(2.8)
北海道		50.9	50.0	51.5	45.8	50.4	50.6	(0.2)
東北		42.9	46.0	46.4	47.9	50.5	50.6	(0.1)
関東		50.0	49.8	51.1	50.7	53.3	56.1	(2.8)
北関東		48.4	47.4	50.4	48.2	50.3	54.6	(4.3)
南関東		51.0	51.3	51.6	52.1	55.0	57.0	(2.0)
東海		52.3	52.3	57.2	52.6	53.3	58.8	(5.5)
北陸		51.5	45.7	46.9	49.0	50.5	49.3	(-1.2)
近畿		53.0	54.3	54.6	53.8	57.9	61.4	(3.5)
中国		51.2	50.0	50.4	51.3	53.1	54.6	(1.5)
四国		48.6	50.3	51.6	48.9	48.4	54.0	(5.6)
九州		52.8	53.1	53.0	52.2	54.4	58.5	(4.1)
沖縄		53.6	55.5	51.2	50.0	47.0	55.8	(8.8)

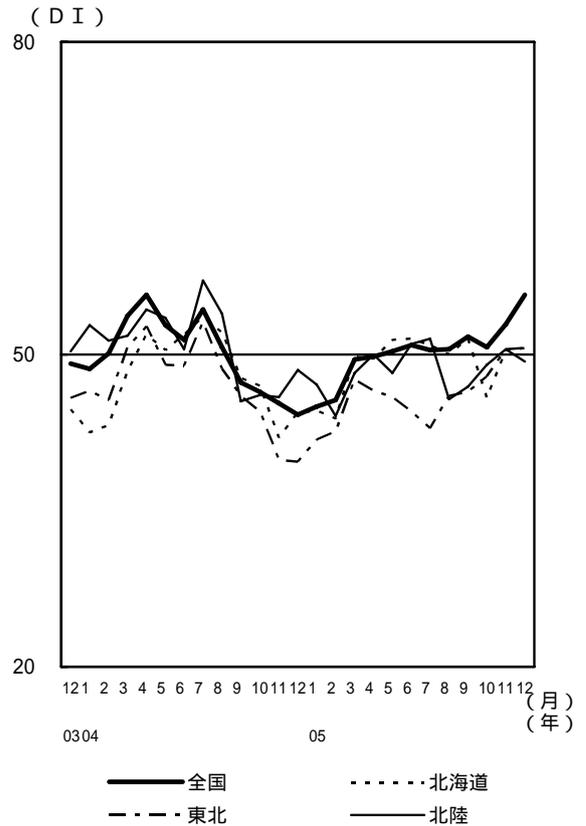
図表8 景気の現状判断DI（家計動向関連）

(DI)	年 月	2005 7	8	9	10	11	12	(前月差)
全国		49.3	49.1	49.6	48.5	51.3	54.8	(3.5)
北海道		50.0	50.9	51.2	45.8	50.3	50.9	(0.6)
東北		42.3	46.2	45.2	47.6	49.4	49.2	(-0.2)
関東		49.7	47.8	49.0	48.1	52.0	55.8	(3.8)
北関東		49.1	46.2	49.3	45.8	48.8	54.7	(5.9)
南関東		50.0	48.8	48.9	49.4	53.7	56.4	(2.7)
東海		51.6	51.3	55.6	48.8	51.3	56.4	(5.1)
北陸		50.7	45.3	44.5	46.0	49.6	49.3	(-0.3)
近畿		51.2	52.5	52.2	52.3	56.2	60.1	(3.9)
中国		49.8	47.6	47.2	48.9	50.4	53.0	(2.6)
四国		45.6	48.4	49.1	46.3	48.0	55.0	(7.0)
九州		50.9	50.0	49.6	48.5	52.2	58.0	(5.8)
沖縄		52.7	54.5	52.6	51.0	42.0	56.0	(14.0)

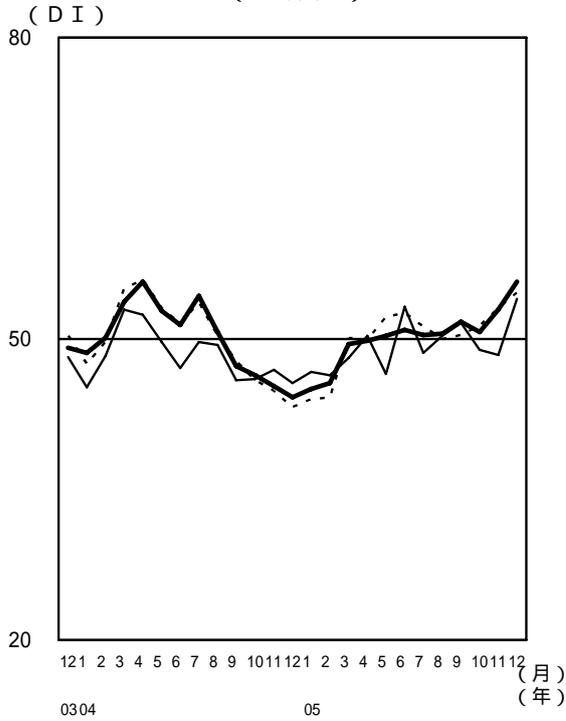
図表9 地域別D I (各分野計)  
(大都市圏)



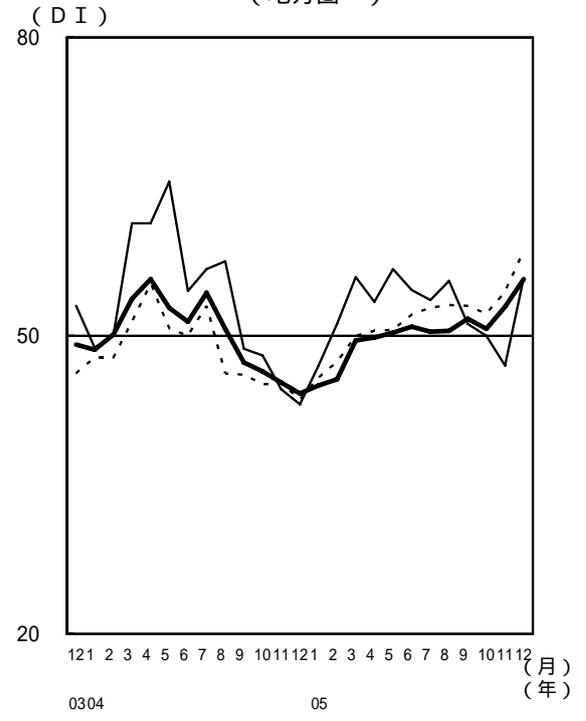
図表10 地域別D I (各分野計)  
(地方圏)



図表11 地域別D I (各分野計)  
(地方圏)



図表12 地域別D I (各分野計)  
(地方圏)



## 2. 景気の先行き判断D I

前月と比較しての先行き判断D I（各分野計）は、全国 11 地域中、8 地域で上昇、3 地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは北海道（7.3 ポイント上昇）、最も低下幅が大きかったのは東北と九州（0.6 ポイント低下）であった。

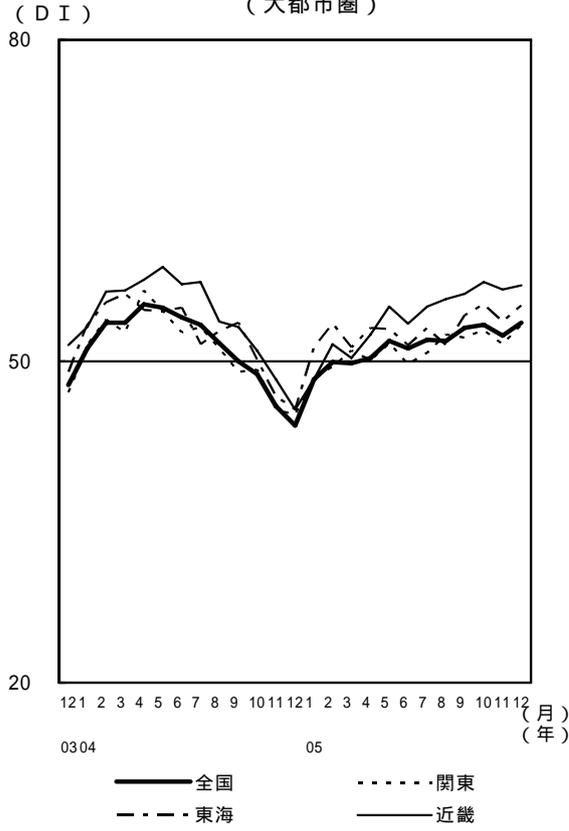
図表 13 景気の先行き判断D I（各分野計）

(D I)	年 月	2005 7	8	9	10	11	12	(前月差)
全国		52.0	51.9	53.1	53.4	52.4	53.6	(1.2)
北海道		52.9	49.8	50.2	48.1	45.9	53.2	(7.3)
東北		47.3	47.2	47.3	49.1	50.0	49.4	(-0.6)
関東		50.8	52.5	52.2	52.9	51.6	53.4	(1.8)
北関東		49.9	51.4	52.0	50.6	49.2	50.4	(1.2)
南関東		51.4	53.1	52.3	54.3	52.9	55.2	(2.3)
東海		53.1	51.5	54.3	55.3	53.7	55.2	(1.5)
北陸		53.6	49.5	52.6	52.3	50.5	51.8	(1.3)
近畿		55.1	55.8	56.3	57.4	56.7	57.1	(0.4)
中国		52.2	53.1	55.7	53.7	52.5	52.4	(-0.1)
四国		50.6	52.9	53.3	54.3	51.3	52.8	(1.5)
九州		53.3	52.5	55.0	55.3	55.3	54.7	(-0.6)
沖縄		53.0	51.8	57.6	53.9	54.8	56.4	(1.6)

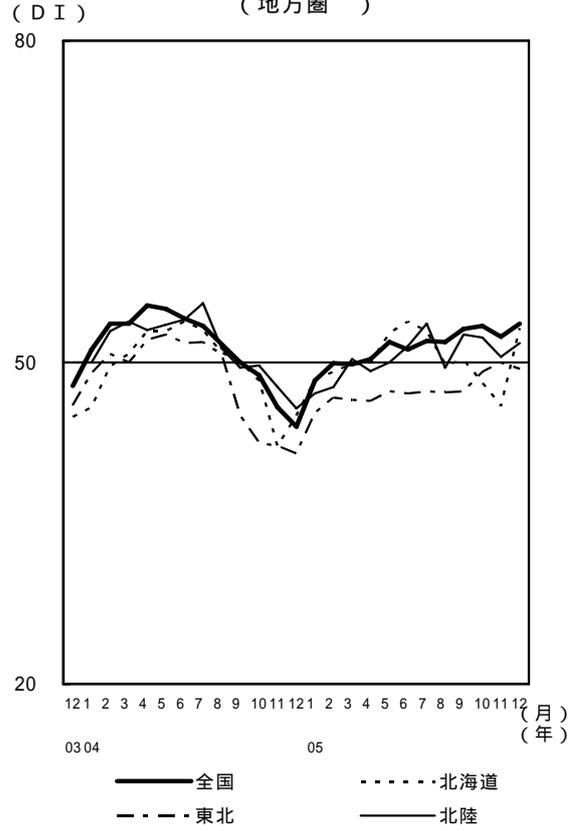
図表 14 景気の先行き判断D I（家計動向関連）

(D I)	年 月	2005 7	8	9	10	11	12	(前月差)
全国		50.9	50.7	52.4	52.8	51.7	52.6	(0.9)
北海道		52.6	48.5	50.3	47.9	46.6	54.7	(8.1)
東北		46.7	47.6	47.4	48.7	50.7	48.7	(-2.0)
関東		50.3	51.3	52.4	52.8	50.7	53.0	(2.3)
北関東		49.5	50.9	51.4	50.7	48.1	50.5	(2.4)
南関東		50.8	51.5	52.9	53.9	52.1	54.5	(2.4)
東海		52.1	49.1	52.2	54.0	53.0	52.9	(-0.1)
北陸		53.7	49.6	52.2	51.4	50.4	51.8	(1.4)
近畿		53.3	54.3	55.2	57.1	55.8	56.3	(0.5)
中国		50.2	53.0	55.5	54.1	50.9	49.6	(-1.3)
四国		48.2	50.8	52.6	53.8	49.6	49.1	(-0.5)
九州		51.9	50.6	53.1	53.6	54.6	53.9	(-0.7)
沖縄		52.7	48.2	55.2	52.9	51.8	57.8	(6.0)

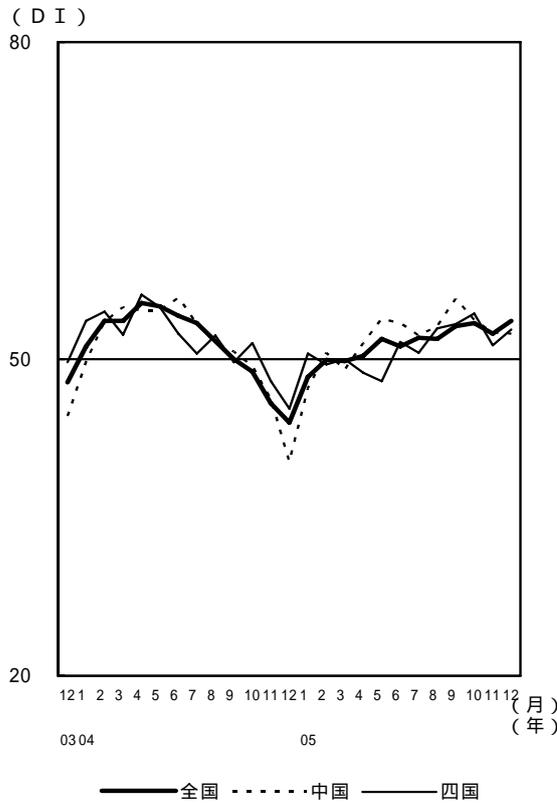
図表15 地域別DI(各分野計)  
(大都市圏)



図表16 地域別DI(各分野計)  
(地方圏)



図表17 地域別DI(各分野計)  
(地方圏)



図表18 地域別DI(各分野計)  
(地方圏)



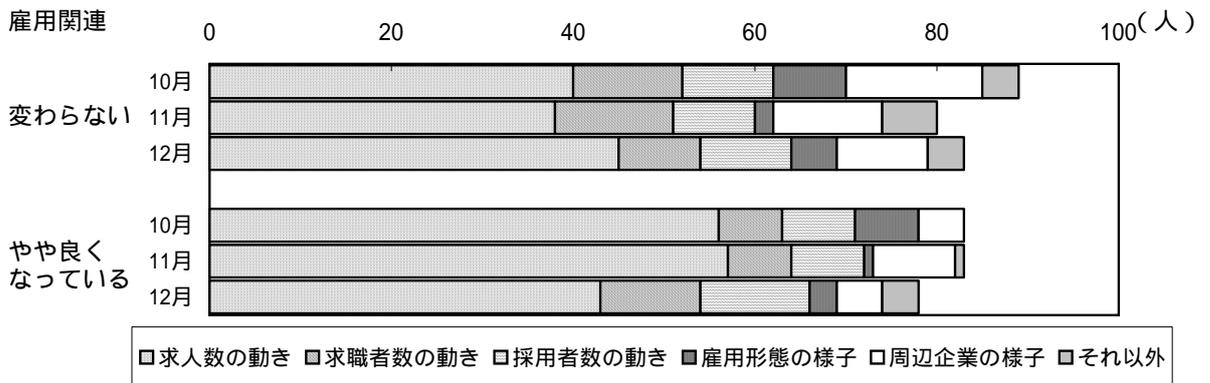
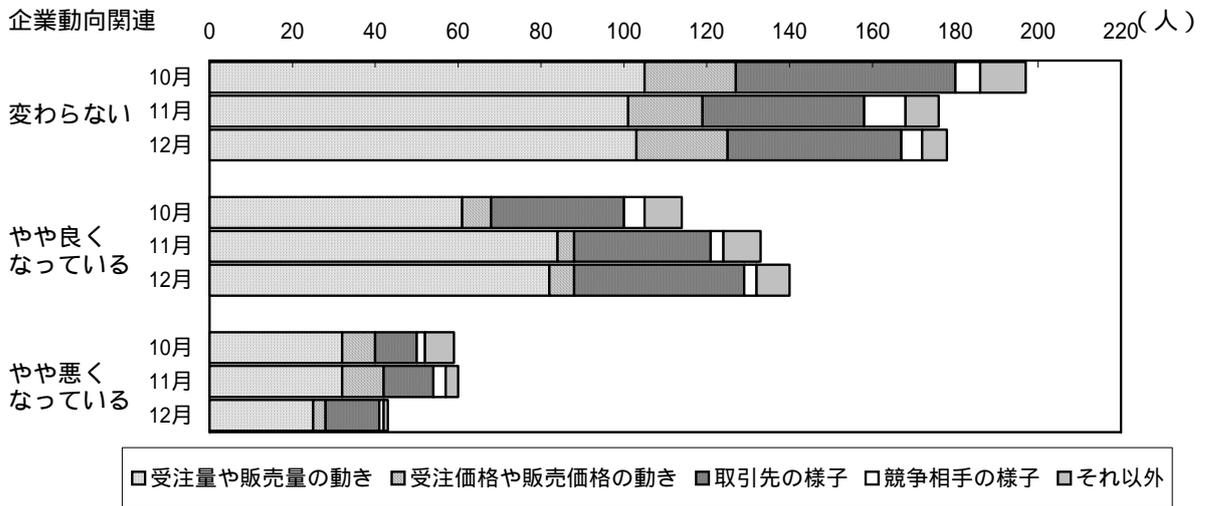
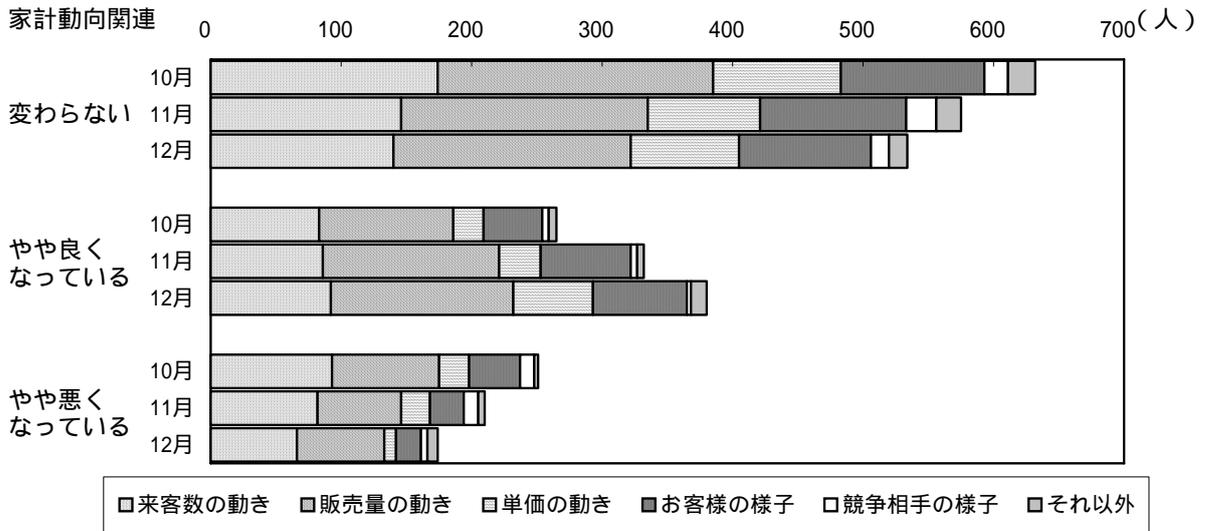
### III. 景気判断理由の概要

全国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	特徴的な判断理由	
現状	家計 動向 関連	・当地では地上デジタル放送は始まっていないが、対応するテレビやDVDの動きがますます顕著である。また多くの商品で、高性能タイプや高付加価値タイプのものの販売構成比が高まっている。例年より寒く、暖房機器の動きも活発である(中国=家電量販店)。	
		・厳冬により、防寒衣料・用品が好調に推移している。調温機能のある実用衣料は前年比180~200%と伸びており、肉厚のトレーナーやコート等も同120%となっている。鍋物商材の動きも好調で、点数、客単価共に伸びている(北関東=スーパー)。 ・ビジネス、観光客共に伸びている。クリスマスは宿泊、レストラン共に、客数が昨年より大幅に増えた。競合店も同様である。宴会も順調で、消費が動き出したという実感がある(近畿=都市型ホテル)。 ・販売量は前年比微増となっており、相変わらず高額品の動きが堅調である。特に特選ブランドや高級腕時計、高級婦人服の動きが良い。加えて、先月からの気温の低下により、婦人服、紳士服ともに重衣料を中心に好調に推移している(九州=百貨店)。	
		・例年は忘年会帰りの客が来店するが、今年は1次会で解散し2次会はやらないことが多いようである(南関東=スナック)。 ・観光が好調だが、リピーターが増加している気配がある。今年は寒さと強風で地元客数が伸び悩んでいる。例年並みがやっとならぬ(沖縄=その他専門店[楽器])。	
	企業 動向 関連	・久しぶりの大雪で、入場者数は前年に比べ2けた近い減少となった。個人客は出足が鈍く、団体客・グループではかなりのキャンセルが発生した(北陸=テーマパーク)。	
		・寒波のために取引先の暖房器具等が大幅に売れ、原油高のあおりで電気式暖房器具等の輸送依頼も多い。運賃的にはある程度幅をみてもらえている(北関東=輸送業)。 ・自動車関連は引き続き国内・海外向けともに好調を維持していて全く受注が減らない。人員採用をかけているが、なかなか人が集まらない(中国=電気機械器具製造業)。	
		・売上を上げる努力をしなければならないが、努力をしてもだめだという状況はなくなり、頑張れば多少数字に跳ね返ってくる状況が感じられる(東北=コピーサービス業)。 ・クリスマス前の大寒波で交通網が寸断され、受注はあるが荷物が届かない状態が続いており、売上は前年並みを維持するのがやっとならぬ状態である(近畿=食料品製造業)。	
	雇用 関連	・12月としては20年ぶりの大雪に見舞われ、12月工期の工事が延びたため売上高が減少した。また、除雪費用の発生で、工事の採算も悪くなっている(北陸=建設業)。	
		・派遣に登録する人は激減しているが、企業の直接雇用が非常に活性化しており、企業の積極的な採用が目立っている(四国=人材派遣会社)。 ・派遣依頼は前年比2けた以上伸びているが、仕事を選べるほど求人が増えたせいか、求職者の場所や時給等へのこだわりが強く、人選に苦戦している(南関東=人材派遣会社)。	
	先行き	家計 動向 関連	・冬物の売行きが好調で、春物以降の商品に良い影響が出る。百貨店も様々な仕掛けを行い、客の来店に期待できる環境が少しずつ整いつつある(南関東=百貨店)。 ・前年に比べ単価が上昇しているのはテレビ、洗濯機等で、低下しているのはパソコン・関連品、DVD、ビデオカメラ等である。商品差はあるが、販売数量と売上金額の伸びがほぼ連動しており、単価の下落も止まったとみられ、やや明るい(北陸=家電量販店)。
			・クリスマスケーキや年末の予約商品は好調だったが、日常商品は低価格志向が続いている。特別な支出には財布のひもが緩んできた感じはある(北海道=コンビニ)。 ・忘年会予約が予想以上に減少したため、新年会はあまり見込めない。一般予約は徐々に伸びてきており、大型の団体予約がある程度見込めている(北関東=観光型ホテル)。 ・積雪による客足の伸び悩みや商品の配送の遅れが目立っており、今年の冬の景況は前年を下回ることが懸念される(東北=商店街)。
・1月から入居するテナントがあり面積も比較的広く、賃貸収入は増加する。契約には至らないが、空室下見の件数も増加傾向にある(北関東=不動産業)。 ・まだ力強い動きではないが、新たな大口物件の話なども出始めており、そのうちのいくつかは成立してきているので、緩やかながら売上は増加する(近畿=化学工業)。			
企業 動向 関連		・民間の建築工事では、設備投資の見積依頼の件数やや増えてきているが、競争が激しく、適正な価格での落札ができない状態が当面続く(四国=建設業)。 ・自動車産業の設備投資も山を越えたようで、2006年の前半は大きな計画もなく、受注量は減少する見込みである(東海=一般機械器具製造業)。	
		・新しくハローワークを利用する個人事業主が増え、技能、技術の伝承に基幹社員の採用への意欲がみられる(東海=職業安定所)。	
雇用 関連		・派遣請負等の非正規型雇用求人占める割合が依然として高い。即戦力志向も強く、求人倍率は改善傾向にあるが、再就職するには厳しい面もうかがえる(東北=職業安定所)。	

図表19 現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移



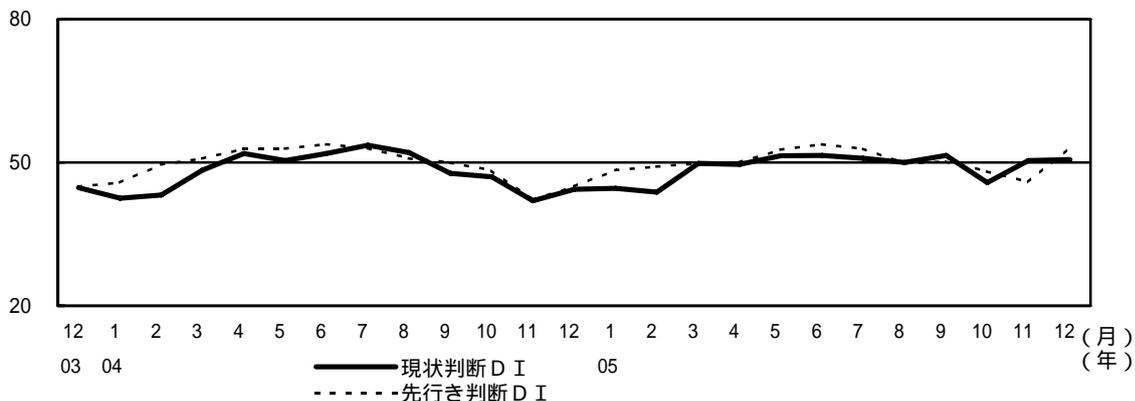
1. 北海道

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由
現状	家計動向 関連	・スーパーなど競合店の販促活動の回数が増加し、売上は厳しい状況にある(コンビニ)
		・例年と比べて根雪になるのが早く、防寒衣料の動きが活発化しており、前年比で2~3割伸びた店もある。観光客はダイヤの乱れなどのため前年をやや下回っている(商店街)
		・お歳暮ギフトやクリスマス商品のように好性の強い商品の動きはやや良くなってきているが、日常の食品については、野菜や米の単価低下に加えて、1人当たりの買上点数もなかなか回復せず、客単価は低下の一途をたどっている(スーパー)
	企業動向 関連	・全国的に記録的な寒波と大雪の影響で、生鮮食品の高騰や輸送の遅れ等が生じたことから、受注量、販売量とも前年を10%程度下回った。また製品の販売単価や消費者の購入単価が毎年低下しており、売上維持に苦労する企業が多くなっている(食品品製造業)
		・レストランの客単価が上昇し、売上が10%程度増えている。クリスマス期間の売上も同様である。宿泊については、アジアを始めとした海外客の動きが相変わらず良く、さらに個人客の動きも良くなっている(その他企業[コンベンション担当])
雇用 関連	・原油価格の高騰に伴う船社の運賃値上げにより、更に厳しい環境となり、引受料金との逆ざや現象が多くなってきた(輸送業)	
	・就労地が道外の大量請負求人があるため、新規求人数は前年比で約15%の増加となっているが、基幹産業である食品品製造業の求人は大幅な減少となっている(職業安定所)	
その他の特徴 コメント		・人材派遣の要望ではあるものの、販売系、営業系、事務系、医療系ともオーダーが増加している。企業における中途採用意欲も継続して強い。しかしながら選考基準は依然として高く、なかなかマッチングまでに至っていない(人材派遣会社) ：中旬からクリスマスイヴにかけて、海外のスーパーブランドなど的高額商品が力強く動いた。クリスマスギフトあるいは自分へのごほうびといった目的をもった購買については、財布のひもが緩んでいる(百貨店) ：来客数が減った。天候不順等による航空機欠航、機材の故障が影響した(旅行代理店)
先行き	家計動向 関連	・12月に入り、寒波の影響で非常に気温の下がる日が続いているが、この状況が1月以降も続くことから、引き続き防寒物のコート、肌着、雑貨類が売れる(百貨店)
		・ツアー客は順調な入込状況にある。個人客は家族客を中心にリピーターが戻りつつあるが、宿泊料、付帯収入ともに伸び悩んでいる。全体が増加するかは不透明な状況である(観光型ホテル)
	企業動向 関連	・設備投資や住宅着工も一巡する。観光については、東南アジア客の増加や知床効果などで前年を上回るが、宿泊単価などは伸び悩む。個人消費については、公務員の給与削減などから弱めの動きとなり、灯油価格の上昇も家計を圧迫する(金融業)
		・主力である道内の工事が、冬期間で全体的に減少することに加えて、補正予算の執行が4月以降になることが予想されている(その他サービス業[建設機械レンタル])
	雇用 関連	・来年度の国家予算が内示されたが、北海道開発局の予算が削減された結果、土木建設業の淘汰がますます進み、雇用にも大きな影響を及ぼす(新聞社[求人広告])
その他の特徴 コメント		：クリスマスケーキや年末の予約商品は好調だったが、日常商品は低価格志向が続いている。特別な支出には財布のひもが緩んできた感じはある(コンビニ) ：税負担の見直しで会社員は給料の手取りが減り、特にランチの外出が手控えられる。味の良さで評判だった個人経営のレストランや洋菓子店なども閉店に追い込まれている。今後、支庁制度の見直しや公務員給与の引き下げも大打撃となる(高級レストラン)

( D I )

図表20 現状・先行き判断D Iの推移

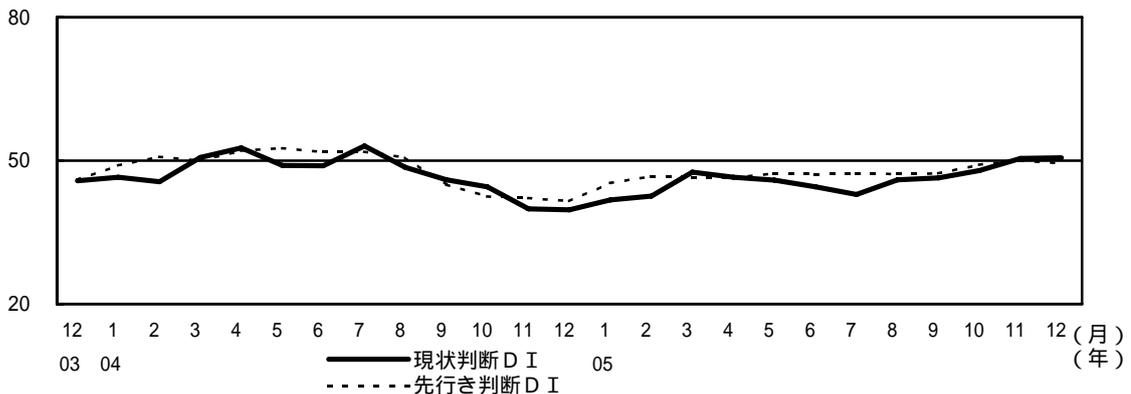


2. 東北

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由
		判断の理由
現状	家計 動向 関連	・寒波の影響で、防寒物の動きは良いが、11月に比べ、低価格志向やセール待ちの様子がみられる(衣料品専門店)。
		・これまでの客はまず価格をみるという商品選択を行っていたが、ここ2か月前から気に入ったものを第1に選ぶ傾向が出てきた。時間はかかるが店員の説明を詳しく聞いて購入する傾向に変わっている(商店街)。 ・12月になってからの大雪により来客数が減ったため商談の数が極端に減った。雪による事故で台替えが2件ほどあった(乗用車販売店)。
	×	・客の話では、忘年会は一次会だけで二次会はできないという話が聞かれ、タクシーに乗る客も大変少なくなっている(タクシー運転手)。
	企業 動向 関連	・売上を上げる努力をしなければならないが、努力をしてもだめだという状況はなくなり、頑張れば多少数字に跳ね返ってくる状況が感じられる(コピーサービス業)。
		・全体的に仕事量が増加傾向で、当社の工業団地では自動車関連の加工部品を中心に、活発に動きだしている。金融機関の話でも、中小企業にも日が当たり出し、強気の会社が多く、設備投資を計画している企業も多い(電気機械器具製造業)。
×	・回線数の契約見直しを行い始めている傾向に変わりはないが、受注単価のダウンに加え、ただ解約のみというケースもみられる(通信業)。	
雇用 関連	・特に新卒採用が伸びている。しかし、採用基準は下げず優秀な学生がいれば採用したいという企業が増えている(求人情報誌製作会社)。	
	・パート社員対応のセキュリティ関係企業等から12~2月までの間に複数の派遣社員の注文があった。3か月前には打診すらなかったのでやや良くなっている(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント	<p>：11月後半からの冷え込みと最近の大雪で客足が遠のいている。防寒靴、除雪用具等の一部の季節商品は好調であるが、全体的には前年を割り込んでいる。最近では、大雪のため予約したクリスマスケーキを取りに行けず、売れ残った洋菓子店があった(商店街)。</p> <p>：忘年会のピークだった22日に大停電が発生し、全館満室満席であったが、当日90%以上のキャンセルとなり、昨年の新潟県中越地震以来の大打撃となった(都市型ホテル)。</p>	
分野	判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	・クリアランスセールなどセールは期待できるが、この寒さの影響でコートの品切れが心配される。春物展開を打ち出し、目新しさを出していきたいが天候次第である(百貨店)。
		・例年になく春物の入荷予定の問い合わせが多く、春物に期待がもてる(衣料品専門店)。
企業 動向 関連	・物件数が確実に増えており、また、今後の受注件数も増える見込みにある。ただし、損益ベースでは非常に厳しい内容が多い。建築構造計算書偽装問題から、工事及び設計を中小から大手ゼネコンへ依頼する傾向が出始めているが、コスト的に依然厳しい(建設業)。	
	・今冬の厳しい寒波のため、衣料品全般の売行きが良くなり、在庫の軽減につながり、来秋冬物の企画に弾みがつく(繊維工業)。	
雇用 関連	・派遣請負等の非正規型雇用求人のおける割合が依然として高い。即戦力志向も強く、求人倍率は改善傾向にあるが、再就職するには厳しい面もうかがえる(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント	<p>：来年3月頃まででは原料不足が解決しない。今回の輸入条件では、牛タンが材料がBSE問題前の約5%しか充足できないため、当業界の回復はまだない(食料品製造業)。</p> <p>：積雪による客足の伸び悩みや商品の配送の遅れが目立っており、今年の冬の景況は前年を下回ることが懸念される(商店街)。</p>	

( D I ) 図表21 現状・先行き判断D Iの推移



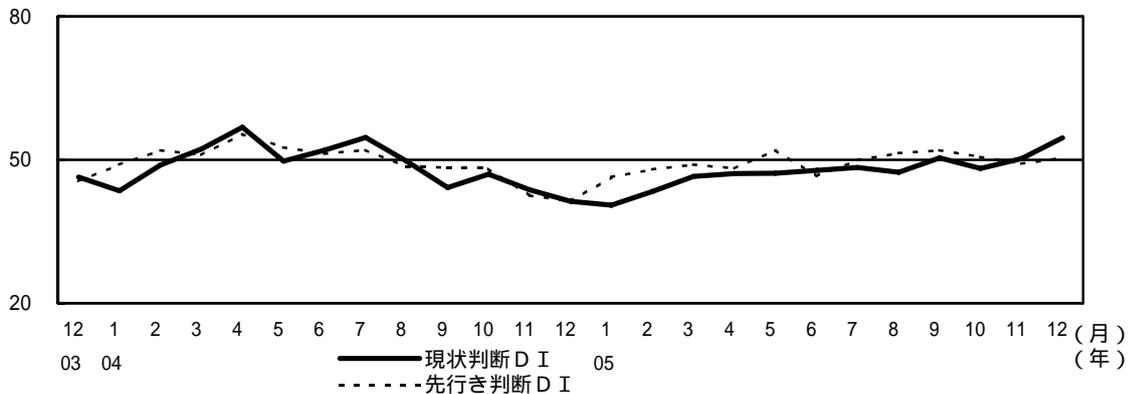
3. 北関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	・忘年会シーズンにもかかわらず、家族連れや10名前後のグループで簡単に済ませているようで、会社関係の大口は相変わらず少ない(一般レストラン)。
		・厳冬により、防寒衣料・用品が好調に推移している。調温機能のある実用衣料は前年比180~200%と伸びており、肉厚のトレーナーやコート等も同120%となっている。鍋物商材の動きも好調で、点数、客単価共に伸びている(スーパー)。
	企業動向関連	・今月は寒波が厳しく、大型店には客が出向いていても、一般小売店の客はその分少なくなっている。年末商戦も皆控え目で、贈答品も前年より動きが悪い(一般小売店[精肉])。
		・休日出勤をしながら、目一杯注文をこなしており、賞与の上積みもしている。年末年始も一部の設備を稼働させるので宿直者を置くことにしている。こんなことは20年くらい前にあったかなというくらい久々である(化学工業)。
	雇用関連	・10~12月と景気の良い状況で横ばいである。受注価格や取引先も好調な状況のまま変わらない(輸送用機械器具製造業)。
・業種により落差が激しく、船舶関係の仕事は今も相当きており、医療関係、自動車関連も入っているが、それ以外のところのがた落ちである(電気機械器具製造業)。		
その他の特徴コメント	・月間有効求職者数が平成15年2月から35か月連続、前年度比で減少している。この6か月間は減少幅が1けた台と横ばい傾向だが、まだ変わらない状況である(職業安定所)。	
		・製造業、コンピュータシステム開発関連が堅調である。個人住宅関連が堅調までには至らないものの、上向きの状態である(民間職業紹介機関)。
		・年末にかけて例年正社員を中心に募集がかなりあるが、今年は相当悪い。当社だけではなく、雑誌や他の求人媒体でも同様の状況である(新聞社[求人広告])。
		：イベントや試食販売、声掛けなどの売り込みが好調で、クリスマスケーキや年賀状印刷などが売上、件数共に前年を上回り、客単価も上昇している(コンビニ)。
		：寒波のために取引先の暖房器具等が大幅に売れ、原油高のあおりで電気式暖房器具等の輸送依頼も多い。運賃的にはある程度幅をみてもらえている(輸送業)。
分野	判断	判断の理由
先行き	家計動向関連	・客の需要は伸びると思うが、それに見合う商品の供給量が減少する。メーカーが在庫過多にならないようにものづくりがタイトになっている状況が不安材料である(百貨店)。
		・冬季オリンピック等で映像関連商品が売れる。季節商品では、大変寒いために前年の3倍以上上る物もあり、メーカー欠品が多く、チャンスロスが発生している(家電量販店)。
企業動向関連	・取引先の話から油圧機器業界、建機業界、自動車業界を中心に、年明け後も引き続き忙しい状況となる。今のところ悪くなるとの話は、全く出ていない(一般機械器具製造業)。	
	・1月から入居するテナントがあり面積も比較的広く、賃貸収入は増加する。契約には至らないが、空室下見の件数も増加傾向にある(不動産業)。	
雇用関連	・新規求職者は4か月ぶりに2,000を下回り、平成16年12月以来の低水準となっている。しかし、平成17年11月末に大手タイル製造会社及びその関連会社で約50名の企業整備があるなど、今後も急速な景気回復は見込めない(職業安定所)。	
その他の特徴コメント	・全般的に今年はいいさつ回りが非常に多い。今までは大企業やお役所が多かったが、今年では中小企業はいいさつ回りが非常に多い(タクシー運転手)。	
	・忘年会予約が予想以上に減少したため、新年会はあまり見込めない。一般予約は徐々に伸びてきており、大型の団体予約がある程度見込めている(観光型ホテル)。	

( D I )

図表22 現状・先行き判断D Iの推移



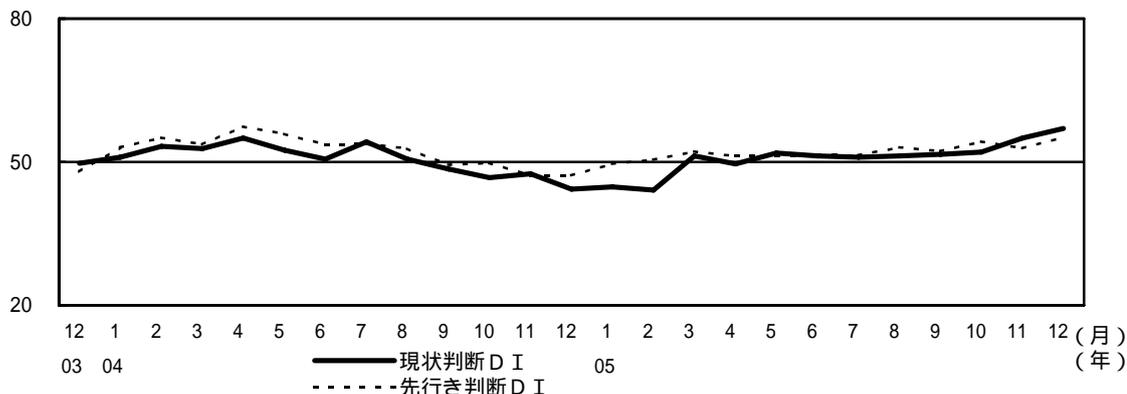
4. 南関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・12月は寒波到来もあり、冬物、防寒商材の売上が、婦人、紳士共に2けた増と大幅に伸び、売上をけん引している。特に婦人コートは前年比約130%、紳士コートは同約106%である。11月末から都心本店では春夏物を展開しているが、革小物、バッグなど、アクセサリー中心に動きが良い。お歳暮商戦は11月中旬からの累計で前年比約102%で、届け先件数は減少したが、来客数減に歯止めがかかり、単価も上昇している(百貨店)。
			・新型車が出ているにもかかわらず、客が見に来ない。また、客は現金を出したがないため、割賦販売が増えている(乗用車販売店)。
企業 動向 関連			・マンション偽装問題に明け暮れた1か月で、賃貸物件であっても、大丈夫かと質問されるなど、影響を受けている(不動産業)。
			・取引先では、寒冬によって暖房器具並びに冬物衣料の売行きが好調である(税理士)。
			・新規物件が全くといってよいほど無くなっている(建設業)。
雇用 関連		・次年度新卒採用に関する企業のPR活動はおう盛になっている。応募者予備軍の確保に予算を掛けているが、学生の反応が鈍く、企業側の苦勞がみえる。全体として採用予算枠は拡大傾向にある(求人情報誌製作会社)。	
		・派遣依頼は前年比2けた以上伸びているが、仕事を選べるほど求人が増えたせい、求職者の場所や時給等へのこだわりが強く、人選に苦戦している(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント	<p>：冬物防寒アウター商品は前年比135%で、クリスマスギフト商品も前年比110%と好調に推移している。どちらの商品も高単価商品がけん引し、ヒットしている(スーパー)。</p> <p>：クリスマスディナーの来客数が前年より増加し、単価の高い料理も売れている。カップルの食事は、単価が少し上がり、家族連れの来客数が伸びるなど、個人消費の回復傾向がみられる。正月の宿泊客は、毎年、ほとんど決まった固定客だが、今回はスイートルームの宿泊プランの予約も入っている(都市型ホテル)。</p>	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・このまま厳冬で推移すると、1月は冬物セールでしのげるが、2月の春物の動きが不安である。この2、3か月は冬物プラス、春物マイナスとなり、合計で前年と変わらない数字となることが予想される(衣料品専門店)。
			・冬物の売行きが好調で、春物以降の商品に良い影響が出る。百貨店も様々な仕掛けを行い、客の来店に期待できる環境が少しずつ整いつつある(百貨店)。
	企業 動向 関連		・一日も休まず、大みそかまで楽しく仕事をする12月は久しぶりである。現状の忙しさがこのままの状態です、5、6月までは続く(輸送用機械器具製造業)。
			・20年ぶりの寒い冬が、衣料品や生活用品等の売上増に寄与する(経営コンサルタント)。
雇用 関連		・パートやアルバイトの採用を希望する企業があっても人材が集まらず、派遣で対応せざるを得ない。経費がかかっても人材確保を優先する状況になっている(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント	<p>：新規求人数は2か月連続で伸び率が1けた台前半と、数か月前までの勢いがなくなっている。専門的、技術的職業について有効求人倍率が9.0倍となるなど、人材確保が更に厳しい状況となっている(職業安定所)。</p> <p>：計画は多少動きが出てきているが、耐震強度偽装事件が今後も尾を引きそうである。現在その処理業務を行っている(設計事務所)。</p>	

( D I )

図表23 現状・先行き判断D Iの推移



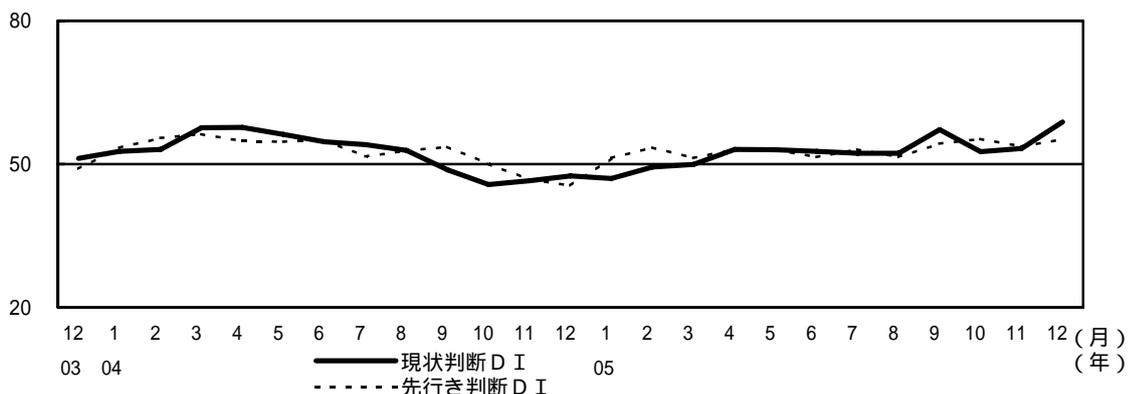
5. 東海

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由	
		判断の理由	判断の理由
現状	家計動向関連	・月の前半は予約が好調で、目標のみならず前年も上回る勢いであった。しかし、後半は雪の影響で閉鎖を強いられ、売上は半分となっている(ゴルフ場)	・月末は、雪の影響で消費が鈍ることも予想されたが、来客数は減少したものの単価が上昇し、販売量も衰えていない。既存店全体の売上も前年を超えており、順調な動きである(スーパー)
		・大雪で野菜価格が上昇するなど、最近では諸物価が高騰している影響で、当店の客層である主婦は支出を控えている(美顔美容室)	・大企業と比べて中小企業では回復が遅れているが、冬のボーナス支給状況をみると、前年並みないし微増とやや回復している(会計事務所)
		・受注量は微増であるが、各案件とも注文主からの値引き要求が強く、利益目標の確保が厳しい(一般機械器具製造業)	・受注量が急増し、受注件数も過去最高となっている。12月中の納品希望が多く、残業時間は前月比6割増となっている(窯業・土石製造業)
	企業動向関連	・企業の高い求人意欲が続いている。雇用環境の好転に伴い、より良い条件を求めて転職する者の数が増えている一方で、退職者を引き留めようと希望部署への異動や給与等の条件見直しをする企業も増えており、人出不足感が増している(民間職業紹介機関)	・新規求人数は前月一時的に減少したが、今月は再び増加している。しかし派遣、請負求人が35%と、非正規社員へのニーズが相変わらず高い(職業安定所)
		・近隣企業の休日出勤が増えている影響で、休日の昼食利用が目立って増えている(一般レストラン)	・構造計算書のねつ造問題が発覚して以降、構造計算に時間がかかったり建築確認申請の許可が遅くなったりと、工期は大幅に伸びており、その分経費が増加している。また、消費者も住宅購入には今まで以上に慎重になっている(住宅販売会社)
	その他の特徴コメント		
先行き	家計動向関連	・乗用車販売は、新規顧客が増えなければ、目標達成ができない状態が続く。サービス工場は、今月は大雪の影響でスタッドレスタイヤなど冬季用品の売上が前年の倍以上になっているのと、雪による事故の修理入庫で潤っているが、あくまで特需であり、今後の持続力はない(乗用車販売店)	・単価は下げ止まり傾向となっており、安さ一辺倒から良質商品も求める状況に転じている(衣料品専門店)
		・原材料価格の高止まりに対して、販売価格を上げることができない状況が今後も続く(金属製品製造業)	・最近では取引先が運賃見直しに応じてくれる。荷物の動きも、引き続き活発に推移すると情報がよく聞かれる(輸送業)
	企業動向関連	・新しくハローワークを利用する個人事業主が増え、技能、技術の伝承に基幹社員の採用への意欲がみられる(職業安定所)	
	雇用関連		
	その他の特徴コメント	・ここ数か月、売上は落ち込むことなく、順調に伸びてきている。特に婦人服や輸入特選ブランドなど、ここ数年厳しい傾向にあった商品が堅調な回復を示している。このような傾向は数年来なかった現象であり、消費の力強さは最低でも半年は持続する(百貨店)	・自動車産業の設備投資も山を越えたようで、2006年の前半は大きな計画もなく、受注量は減少する見込みである(一般機械器具製造業)

( D I )

図表24 現状・先行き判断D Iの推移

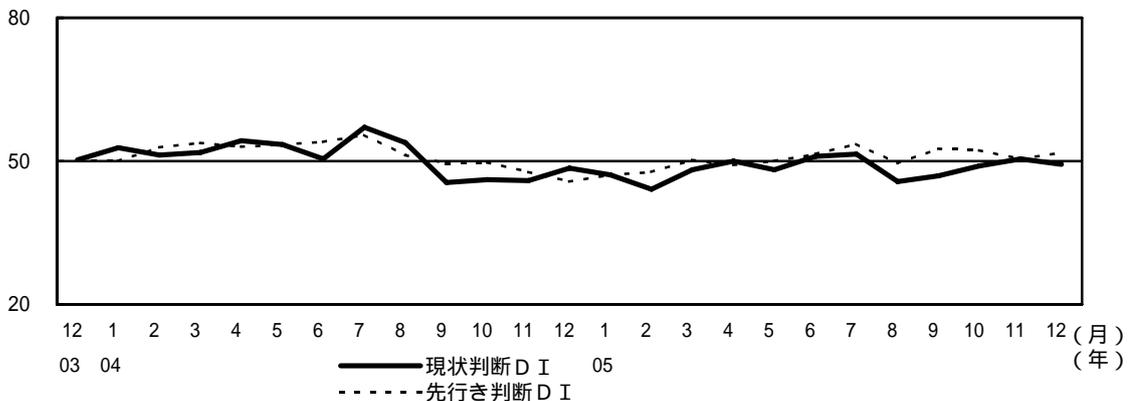


6. 北陸

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・中旬から大雪に見舞われ、非ウールのコート(軽い感じの防寒コート)の売上は前年の2.5倍以上となり、品切れ状態が続いた。高額のカシミアのセーターやコートも人気があり、単価の上昇につながった(百貨店)。
			・雪が多かったため、月2回も値上がりした灯油を含め、暖房費の増加が家計を圧迫している(スーパー)。
企業 動向 関連			・生活雑貨卸では例年以上に冬物出荷が続いており、初冬からの寒さが個人消費に好影響をもたらしている(金融業)。
			・雪害による影響がなければ、前年以上の物量、利益が確保できた(輸送業)。 ・12月としては20年ぶりの大雪に見舞われ、12月工期の工事が延びたため売上高が減少した。また、除雪費用の発生で、工事の採算も悪くなっている(建設業)。
雇用 関連			・即戦力となる一時的、臨時的求人が目立っている(人材派遣会社)。
			・全体の求人数は減少傾向をたどっている。このなかでアウトソーシング関連企業の求人割合は依然高く、期間雇用が多い。求職者の動きが鈍化していることも影響し、一般企業に求人意欲が感じられない(求人情報誌製作会社)。
その他の特徴 コメント		： 今月は例年より多い忘年会に加え、30数年ぶりの大雪のため、タクシーは連日フル稼働し、例年の2倍以上の売上があった(タクシー運転手)。 ： 久しぶりの大雪で、入場者数は前年に比べ2けた近い減少となった。個人客は出足が鈍く、団体客・グループではかなりのキャンセルが発生した(テーマパーク)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・客が新年に購入する予定の冬物商材を12月に先買いしたとすれば、1月以降の冬物商材のバーゲンが低迷する懸念がある(スーパー)。
			・前年に比べ単価が上昇しているのはテレビ、洗濯機等で、低下しているのはパソコン・関連品、DVD、ビデオカメラ等である。商品差はあるが、販売数量と売上金額の伸びがほぼ連動しており、単価の下落も止まったとみられ、やや明るい(家電量販店)。
	企業 動向 関連		・売上は前年から一貫して右肩上がりとなり、今秋からは高原状態のまま強含みで推移している。この状態は当面変わらない(一般機械器具製造業)。
			・最近特に交換機やLANなどの大型需要がみられ、企業の設備投資に期待が持てる(通信業)。
雇用 関連		・学卒求人の内定率が大幅に上昇し、特に技術系の学卒者確保に奔走している企業の姿はパブル期を思わせる。しかし、自営業の求職者が前年比100%を超え、厳しい零細企業の現状をみると、本格的な回復に向かうとは言えない(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント		： 民間工事の増加基調が続き、ここ数年低下が続いてきた生コン価格も今後着工する大型工事で若干ながら引上げ方向にあるなど、素材価格の上昇が広がり始めている(金融業)。 ×： 大手百貨店の撤退、大手航空会社の東京ルートの特便など、地元にとってマイナスの要素が続く(商店街)。	

( D I ) 図表25 現状・先行き判断D Iの推移



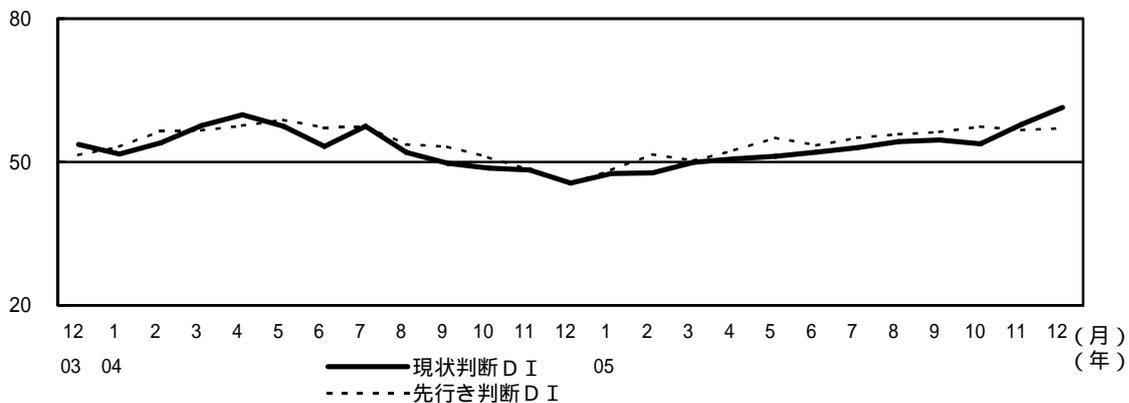
7. 近畿

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	・急激に寒くなり生鮮品の需給がひっ迫してきたことで、単価が回復傾向にある。また、生鮮品については、年末は例年になく上質の物を買う動きがみられた。マグロのトロやフグ、和牛の伸びが顕著で、これが年末商戦を盛り上げた(スーパー)。 ・寒波のおかげで重衣料を中心にニット、パンツなどの動きが活発である。特に、コートなどは1月商戦での品不足が心配されるほどで、全店舗とも25日時点で前年の売上をクリアできた。数年ぶりの全店舗での売上目標達成は確実である(一般小売店[衣服])。
		・セット販売の化粧品の売行きが悪く、売上が例年よりも約50万円減少した(美容室)。
	企業 動向 関連	・気温の低下に伴い、防寒用品の売上が増加している。特に、マフラーは前年の2倍、手袋は3倍と絶好調である。また、アクセサリを中心としたクリスマスギフトも売上が20%増えている(百貨店)。
		・クリスマス前の大寒波で交通網が寸断され、受注はあるが荷物が届かない状態が続いており、売上は前年並みを維持するのがやっとの状態である(食料品製造業)。
		・製鉄関連の取引先ではさらなる増産を目指して積極的な投資を実施している。抑えられていた老朽設備の更新投資も活発で大型案件の受注が増えている(一般機械器具製造業)。
雇用 関連	・ここに来て受注が相次いで決まり、来年分の打診もある。良い案件が多い(建設業)。 ・取引先からの注文量が減少していく一方で、コスト増への対応も考えなければならない状況になっている。来年の第1四半期までは非常に厳しい(電気機械器具製造業)。	
	・依然として中小零細の製造業は継続的に採用を行っているものの、理系学生が確保できていない。企業側の採用意欲は非常に高い(学校[大学])。	
その他の特徴 コメント	・年末特有の慌ただしさが出てきているが、雇用形態が一変しており、派遣よりも紹介予定派遣、正社員志向が目立つなど、派遣社員を確保するのに苦労している(人材派遣会社)。 ：例年に比べて寒いため、冬物の販売状況が好転し、当社の出荷量も増えた(繊維工業)。 ：ビジネス客、観光客共に確実に伸びてきている。特に、クリスマス期間は宿泊、レストラン共に、客の数が昨年よりも大幅に増えた。競合店も同様の状況である。宴会関係も順調で、各セクションとも消費が動き出したという実感がある(都市型ホテル)。	
先行き	家計 動向 関連	・高額品やブランド品を買うよりも、身の回りの商品の中から、今までよりも高品質で、価格の若干高い商品を買いたい傾向になってきている(百貨店)。
		・トリノオリンピックやサッカーワールドカップで映像商品の売上が伸びる(家電量販店)。
	企業 動向 関連	・現在3か月超分を受注済み、年度末の受注残がプラスとなる(一般機械器具製造業)。
		・まだ力強い動きではないが、新たな大口物件の話なども出始めており、そのうちのいくつかは成立してきているので、緩やかながら売上は増加する(化学工業)。
	雇用 関連	・証券、生保、損保といった金融関係の求人が活発になってきているが、ビルメンテナンスといった、そのほかのサービス業の求人があまり活発ではない(新聞社[求人広告])。
その他の特徴 コメント	：今後、賞与の増加や、株高の好影響は必ず出てくる。5月のゴールデンウィークの日並びも良く、悪くなる理由は見当たらない(旅行代理店)。 ：構造計算書偽装問題の影響は大変深刻であるが、それはどちらかという大規模建築物の問題であり、マンションブームに代わる戸建て住宅ブームに期待している。マイホームを買い控えてきた層が、地価上昇を予測して、買い急ぐ動きも出てくる(住宅販売会社)。	

( D I )

図表26 現状・先行き判断DIの推移

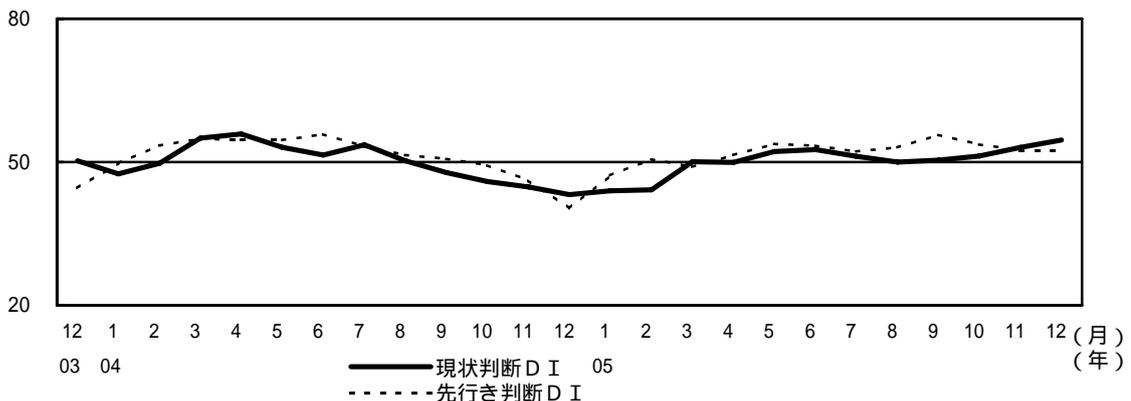


8 . 中国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連		・ 中旬からの冷え込みで、野菜、果物等の農産物は、相場が上昇し価格が上がっている。相変わらず買上点数が伸び悩んでおり、単価の上昇で前年比を維持している(スーパー)。	
			・ 先月に引き続き気温が下がったことで、重衣料が順調であり、前年比増で終了しそうである。今月はボーナスやクリスマスのイベント月であり、特にコート等の高額商品を両親や恋人からのプレゼントに選ぶ若い女性を多く見受けられた。ミセスでは、良い商品を安く手に入れようという客が多く、クリアランスセールの下見の客も多かった(百貨店)。	
			・ 雪と寒波の影響で、来客数が6%前後落ちている。特に18日の日曜日は前年比10%以上落ち込んでしまった(一般レストラン)。	
	企業 動向 関連		・ 大型案件の生産に着手したこともあって、生産量は高水準である。年末の緊急飛び込み注文もあって生産量の下支えとなっている(窯業・土石製品製造業)。	
			・ 自動車関連は引き続き国内・海外向けともに好調を維持していて全く受注が減らない。人員採用をかけているが、なかなか人が集まらない(電気機械器具製造業)。	
	雇用 関連		・ 12月は季節変動が大きい月であり収入で150万円は減少した。また、寒波の影響で業務が混み合い、余分な経費が発生している(輸送業)。	
			・ 新卒の採用活動を未定としていた地域中小企業も、この時期になって、ようやく欠員補充等の理由で採用活動を始めた。これまで振るわなかった、いわゆる一般事務系の正社員求人も微増傾向にあり、除々にはあるが景気の上向き感を感じる(学校[短期大学])。	
	その他の特徴 コメント			・ 求人依頼数を一定数でキープし続けている。求職数は増加しているが、自主的な退職や在職中だがより良い条件を求めての転職をする動きが多く、以前の会社都合による退職による求職とは動機が異なってきている(民間職業紹介機関)。 ： 当地では地上デジタル放送は始まっていないが、対応するテレビやDVDの動きがますます顕著である。また多くの商品で、高機能タイプや高付加価値タイプのものの販売構成比が高まっている。例年より寒く、暖房機器の動きも活発である(家電量販店)。 ： 大人数での忘年会が少なく、件数は前年より増加しているが売上はあまり変わらない。宿泊部門も11月までは好調だったが、今月は前年並みである(都市型ホテル)。
	先行き	家計 動向 関連		判断の理由
				・ 気温の低下により、12月の売上は好調に推移しているが、その反面、1、2月のセールにおける商品の品切れ・欠品が懸念要因である(百貨店)。
企業 動向 関連			・ 一般宴会、宿泊、あるいはクリスマスケーキ、おせち料理の受注状況が昨年を上回る状況にあり、総じて景気回復基調と感じられる(都市型ホテル)。	
			・ 中国の中小メーカーの汎用鋼材生産量が増大しているため価格が軟化しつつあり、供給過剰を懸念して国内鉄鋼各社は汎用品を中心とした減産を夏以降実施している。来年1～3月も減産を継続する予定である。中国の動向次第のため先行き不透明である(鉄鋼業)。	
雇用 関連			・ 18年1～6月の受注は高水準のため生産対応が課題であり、設備投資を行い可能な限り対応に努める。鉄や原油等の原料の更なる高騰が懸念される(金属製品製造業)。	
その他の特徴 コメント			・ 来春の新卒者への求人が前年比約1割増、再来年度の新卒者への求人も1割以上増である。学内企業説明会に参加希望の会社も前年比40社以上の増加である(学校[大学])。 ： 今月中旬から、梅春物の商品が導入された。景気が良くなれば明るい色の商品が売れると言われ、今年の傾向は柔らかいパステル調の春物の動きが良い(百貨店)。 ： 連日、耐震強度の偽装問題が報道され、マンションに対する顧客の購入意欲が低下傾向にあり、問題が収束するまでは販売数の増加は期待できない(住宅販売会社)。	

( D I ) 図表27 現状・先行き判断D Iの推移

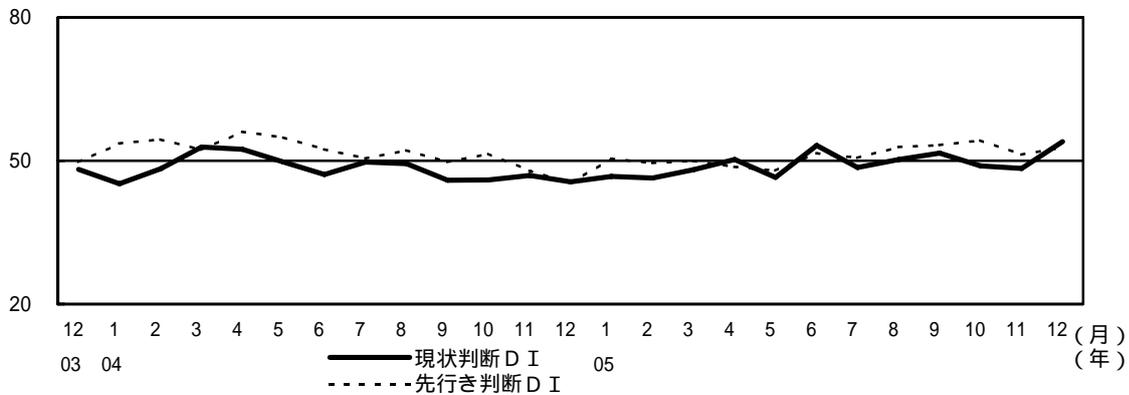


9. 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向 関連		・ 年末年始の旅行も定着化し、リピーター客が増加している。今年は曜日の並びが悪いので売上は増えてはいないが、例年並みを確保することができた。航空券の予約状況も全く取れないという状況ではなく、比較的落ち着いている(旅行代理店)。
			・ クリスマスケーキやおせちの予約数、単価共に昨年を上回っている。また、真空パックの正月御鏡餅も昨年より良く売れており、単価の一番高い御鏡餅は、例年よりも早く 27 日には完売した(スーパー)。
			・ お歳暮商戦売上のピーク時期が短くなり、売上も減少している(一般小売店[菓子])。
	企業動向 関連		・ 年末年始の工場が止まっているときに、通常かなり設備関連の仕事があるが、今年は非常に少ない(電気機械器具製造業)。
			・ 例年になく荷動きが活発で、特に中旬以降は、臨便体制は組んでいたが、雪の影響もあり、運行車が大幅に足りなくなった(輸送業)。
			・ やっと土木関連の工事が取れたが、金額が小さく、回復にはほど遠い(建設業)。
雇用 関連		・ 求職登録者数は前年とほぼ同数である。また、例年、賞与時期以降は、登録者数が増加傾向にあるが、今年は、登録者数の増加はあまり見られない(民間職業紹介機関)。	
		・ 派遣に登録する人は激減しているが、企業の直接雇用が非常に活性化しており、企業の積極的な採用が目立っている(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			：映像商品を中心としたデジタル商品が、非常によく売れている。また、これまで苦戦していたパソコンの売上が前年比で2けた増加している(家電量販店) ：大型店閉店の影響がかなり出ており、来街数が減少している。クリスマス商戦は、まずまず人通りがあったが、平日の落ち込みが大きい(商店街)
分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向 関連		・ 客の話題には冬のボーナスの増加や、株価高などの明るい材料が多く、消費の回復に結び付くことを期待している。しかし、現実には手ごたえが感じられない。しばらくは一進一退の状態が続く(衣料品専門店)。
			・ 最近では、公務員などからの新車受注が多くなっているが、今後、ガソリン価格が安定すれば、公務員以外の人からの受注にも期待したい(乗用車販売店)。
	企業動向 関連		・ 民間の建築工事では、設備投資の見積依頼の件数がやや増えてきているが、競争が激しく、適正な価格での落札ができない状態が当面続く(建設業)。
		・ 新商品に関する取引先からの引き合いが、増加傾向にある(パルプ・紙・紙加工品製造業)。	
雇用 関連		・ 全般的に高知では、県外からの進出企業のみが好調で、地場産業は小売を中心に、全く良くなっていない。雇用も含めて、だんだん悪くなっている(新聞社[求人広告])。	
その他の特徴 コメント			：最近では、住宅用用地の需要に加え、事務所・店舗などの事業用用地に関する不動産の申込が増加している(不動産業) ：地元の得意先の多くは、県外大手との厳しい競争による売上の減少で、広告出稿も減少している。一部の得意先で具体的な新規出店計画・店舗リニューアル計画があり、結果としては変わらない(広告代理店)。

( D I ) 図表28 現状・先行き判断D Iの推移

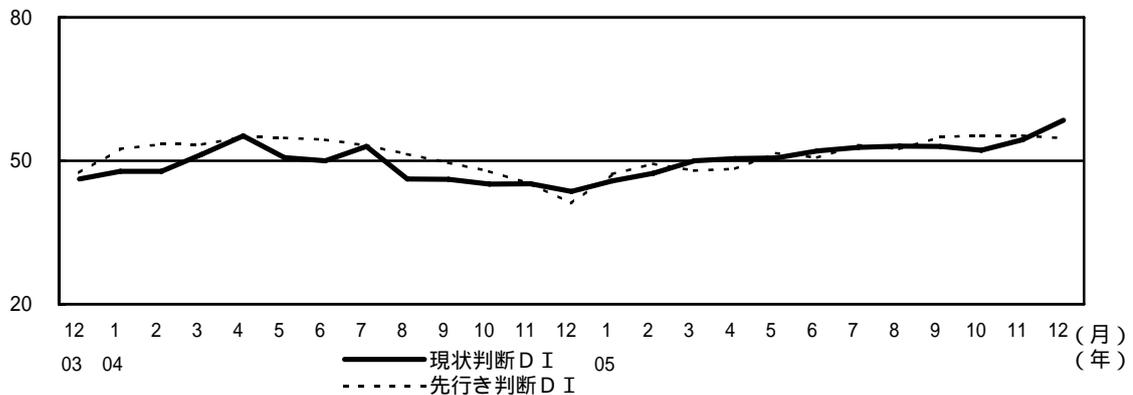


10.九州

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・販売量は前年比微増となっており、相変わらず高額品の動きが堅調である。特に特選ブランドや高級腕時計、高級婦人服の動きが良い。加えて、先月からの気温の低下により、婦人服、紳士服ともに重衣料を中心に好調に推移している(百貨店)。
			・食料品は前年の98%前後で横ばいとなっている。衣料品は、寒波の到来により、紳士服・肌着関係を中心に今までのトレンドから25%増加し、前年比105%程度で推移している。商品が欠品し、取引先にも入っていない状況である。住まい関連があまり動きが良くないので、総合的には前年と変わらない(スーパー)。
			・クリスマスケーキやお歳暮ギフト等の予約商品については、昨年実績よりかなり下回っている。予約された商品も昨年より単価が下がっていて、全体の売上も下回っており依然厳しい状況である(コンビニ)。
	企業 動向 関連		・関係先で飲食、サービス関係の売上がかなり上がっている。タクシーも前年比10%程度の伸びを示し、人が動き、消費が活発になっている(経営コンサルタント)。
			・年末ということもあり荷動きが激しいと思ったが、通常の12月の動きほどはなく、まだまだ低迷している(輸送業)。
	雇用 関連		・車の部品の生産が少量多品種で、単価的に全く採算が合わない(輸送用機械器具製造業)。
		・大幅な増加を示していた新規求職者数の動きに、鎮静化が見られる(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント		・派遣のオーダーの傾向として季節柄、短期が多い時期であるが、今期は長期派遣のオーダーが多い(人材派遣会社)。 ：寒波の影響で防寒衣料がセール前にもかかわらず、好調であった。いつもはセール前で買い控える年末も、コートやダウンジャケットが売れ続けた(衣料品専門店)。 ：愛知万博も終わり、長崎市は「さるく博」の開催や美術館、歴史文化博物館などができたので、予約は増えつつある(観光型ホテル)。	
先行き	家計 動向 関連		・クリスマスやバーゲンへのモチベーションは高いが、正価販売商品は苦戦をしている。また、12月の重衣料稼働の反動で、年明けのバーゲンは苦戦をする(百貨店)。
			・衣料品は防寒具だけでなく、インポートの単価が高い物にも動きが見られた。衣料品がこんなに動いたのは何年か振り、客単価も上昇し、景気は上昇傾向にある(スーパー)。
	企業 動向 関連		・半導体関連のリードフレームや電子部品のコネクタ関連、精密機械部品等の動きが非常に活発になっており、12月と同じような状況で1、2月も推移する。大手では良いところと悪いところのムラがあるが、全般的には動きが活発化している(電気機械器具製造業)。
			・12月は歳末商戦になるが、今年は寒波の襲来で家電量販店や遊技場などが順調に増加した。ポ・ナスが例年以上に支給された影響もあり、消費が活性化し、チラシの受注も前年比108%と伸びた(広告代理店)。
	雇用 関連		・非正規社員の求人が全体の5割を占めており、見かけほど雇用環境は改善していない。ただし、ここ数年の採用控えや大量定年への対応等から、新卒や中途採用に積極的になりつつある企業の採用動向もうかがえる(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		：客単価及び一品単価が連続して上がっている。衣料品全般、特に紳士服に回復基調がみられ、ヤングも相変わらず好調である。それに伴い身の回り品が売れている状況である。単品で絵、宝石、時計などの高額品も売れており、総じて回復基調にある(百貨店)。 ：商店街唯一のスーパーが破産し、空き店舗も埋まらず、来街者は減少する(商店街)。	

( D I ) 図表29 現状・先行き判断D Iの推移

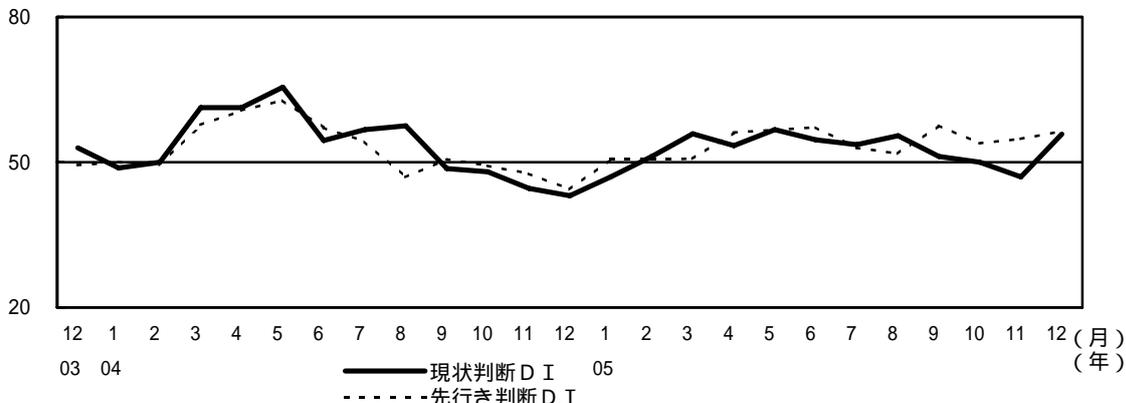


11. 沖縄

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由	
	現状	家計 動向 関連		・先月に引き続き、既存店ベースで前年をクリアできる。トータルでも大幅に前年を上回り売上が好調に推移している。来客数、売上点数の増加が好調の主要因である(スーパー)。
			・客が価格に敏感になり、年末年始の高価格の時期を外して料金の安くなる日に予約が集中しているので、その結果売上が伸びない(観光型ホテル)。	
			・12月は忘年会シーズンで、飲食部門の稼働が良いが、反面宿泊利用が伸び悩んでいる。また、クリスマスディナーショーの集客に予想以上に苦戦している。景気回復の兆しが見え始めたとはいえ、実際には一般消費者の財布のひもは固い(都市型ホテル)。	
企業 動向 関連			・動きに変化は無い。受注価格帯は低水準をキープしている(通信業)。	
			・大口案件を受注したが、年末の繁忙期と重なり現場は苦戦している。しかし売上は増加し、社員の士気は上がり無事年末を迎えられそうである(輸送業)。 ・お歳暮向けにギフトセットを販売しているが、宅配伝票の数量などが昨年に比べて減少している(食料品生産業)。	
雇用 関連			・県内、県外企業共に求人活動は活発で、特に県外企業に関しては平成19年3月卒業生対象の求人が多数寄せられており、企業の積極的な採用活動がみられる(学校[専門学校])。	
その他の特徴 コメント			：2007年問題に関する前倒し採用はまだ続いている。観光業、ホテル業の雇用も好調さを反映して楽観的なムードがある(学校[大学])。 ：観光が好調だが、リピーターが増加している気配がある。今年は寒さと強風で地元客数が伸び悩んでいる。例年並みがやっとならぬ(その他専門店[楽器])。	
先行き	家計 動向 関連		・各地の雪害の影響や、今後懸念されるインフルエンザの流行などで春先までの旅行動向は予断を許さない。宿泊関係では、特に各旅行社の集客のための格安料金設定によって利益率のダウンに拍車がかかっている(都市型ホテル)。	
			・少しずつではあるが金額の安い商品より内容の良い物を購入している様子が見受けられる。徐々にではあるが、景気は上向きになりつつある(家電量販店)。	
	企業 動向 関連		・ここ2~3か月は現状維持で推移する(通信業)。	
	雇用 関連		・紹介予定派遣が多いと、短期契約となって利益もあまり見込めない。また特に年末年始ということもあり、人材募集をしてもなかなかスタッフが確保できない状況でもある(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント			：この数か月間、徐々に単価が上昇してきている。全体的な様子を見ると、少しでも良い物を買上げる客がだんだん増えている(衣料品専門店)。 ：特定商品、特定企業に集中する傾向があり、顧客のトレンド、ニーズにあった商品戦略と品質、低価格、サービスをもっと推し進めていかなければならない。今、中小店において最もネックになっているのは、採用広告を幾ら出しても人が集まらないことである(その他飲食[居酒屋])。

( D I ) 図表30 現状・先行き判断D Iの推移



(参考) 景気の現状水準判断D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)。

図表 31 景気の現状水準判断D I

(D I)	年 月	2005 7	8	9	10	11	12
合計		45.8	46.3	47.0	47.0	48.8	51.5
家計動向関連		43.6	44.4	44.2	43.9	46.4	50.0
小売関連		42.8	43.9	44.0	43.1	45.1	49.4
飲食関連		43.9	44.4	41.0	43.6	45.8	48.0
サービス関連		46.6	45.7	45.5	46.2	50.2	53.7
住宅関連		38.8	43.2	43.7	42.2	43.2	42.2
企業動向関連		46.9	47.7	50.3	50.3	51.2	52.9
製造業		45.5	48.1	50.8	51.6	52.3	52.3
非製造業		48.2	47.9	50.3	49.6	50.5	53.8
雇用関連		57.1	56.0	58.4	59.5	59.1	58.5

図表 32 景気の現状水準判断D I (各分野計)

(D I)	年 月	2005 7	8	9	10	11	12
全国		45.8	46.3	47.0	47.0	48.8	51.5
北海道		42.5	43.4	42.6	40.4	41.9	43.5
東北		37.0	38.7	39.7	41.7	43.6	43.7
関東		45.7	46.1	46.5	46.8	49.7	52.2
北関東		40.8	42.1	42.5	41.0	45.9	48.2
南関東		48.6	48.5	48.9	50.2	51.8	54.6
東海		51.0	50.7	55.6	53.4	51.4	55.9
北陸		44.8	43.2	43.1	44.2	46.8	45.8
近畿		48.0	48.4	49.8	50.2	54.8	57.7
中国		47.2	47.8	47.5	47.9	49.3	51.8
四国		43.0	43.6	44.6	43.0	40.9	48.6
九州		48.1	48.8	47.4	47.5	50.4	54.6
沖縄		51.2	56.7	53.5	50.7	49.4	55.2

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。